

平成30年度 事業計画 (概要)

学校法人大阪産業大学

I. はじめに

私学を取り巻く環境は、18歳人口の急激な減少期において、産業構造や経済社会の高度化・変化、グローバル化の進展により一層厳しさを増しています。

また、文部科学省における「私立大学等の振興に関する検討会議」では、私学は多様性・機動性を最大限に活かし、社会的な要請にいち早く対応するとともに、教育の質を確保し学生の学びを徹底的にサポートするきめ細やかな教育など、特色ある取組みが求められています。

こうした状況の中、本学園における平成30年度の事業計画におきましては、建学の精神である「偉大なる平凡人たれ」に基づき、社会の変化や地域・産業界からの多様な要請を踏まえた実践的な教育の推進を計画しています。

主な取組みとして、大学では、プロジェクト共育(きょういく)やアクティブラーニングなどの手法を取り入れることにより、学生が主体となる教育・研究を積極的に推進します。中学校高等学校においては、各学校各コースの目標に沿った特色ある教育を推進します。さらに、各機関(学校)においては、クラブ活動や地域連携、高大接続についても積極的に取組みます。学園経営の観点からは、学園財政収支改善中期計画やガバナンス強化について継続的に実行し、安全・安心で魅力あるキャンパスの計画、整備を進めて参ります。

また、本学園は平成30年11月に創立90周年を迎えます。これに伴い、「学園創立90周年記念事業」を実施するとともに、創立100周年に向けた長期ビジョンを公表致します。

この様に、平成30年度におきましては、創立以来90年におよぶ歴史と伝統を礎として、今後も社会から選ばれ続ける学園であるために、教職員が一丸となり学園運営を推進して参ります。

II. 重点施策 (下線部は新たな取り組みを示す)

■ 大阪産業大学

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」を踏まえて、社会人として大切な教養や倫理観を養い、基礎学力の上に立った幅広い専門知識を修得し、自らが主体性を持って学ぶことによって、感性豊かで問題解決のための応用展開能力をもった実践的な人材を養成します。

この教育理念の実現のため、学生が自らのキャリアの方向を考えた主体的な学び、教員と学生が対話を重ねることによる対話的な学び、さらに講義だけでなくデータベースやラーニング・コモンズを活用したプロジェクト指向の授業やプロジェクト共育活動によるより深い学びができる体制を整備していきます。また、学生の安全、安心、健康をまもるための教育や事業、グローバルに対応する学生の育成等に力を注ぎます。

さらに、プロジェクト共育等の成果である学生が主体となったシーズ、教員の研究によるシーズ等を積極的に外部へ発信し、社会から評価される産大ブランドの確立へと発展させていきます。

1. 学びのかたちの新しい展開

(1) アクティブラーニングの推進

- ① クラスの規模・授業内容に適切な教育方法を開発する
- ② 全教員参加の FD 研修会を実施する

(2) ポリシーに基づくカリキュラムの見直し

- ① 大学・大学院の教育目的・ポリシー等を見直す
- ② ポリシーとより整合性の高いカリキュラムを作成する

(3) 学習成果の可視化と授業評価

- ① 学生アンケートに基づく教育の改善を図る
- ② IR (インスティテューショナル・リサーチ) 活動により、大学 IR コンソーシアム等のアンケート結果を学生・教員にフィードバックし、学習成果を可視化する

(4) 学長教育改革支援費による新しい学びの支援

- ① 各学部・学科が行う新しい学びのかたちに適応した授業・プロジェクト・行事等に対して支援を行う

(5) プロジェクト共育の拡大

- ① 現在のプロジェクト (18 団体) を見直し、新しいプロジェクトを募集する

2. 教学改革の推進による教育・研究の充実に向けた活動

(1) 自己点検・評価体制の強化

- ① 大学全体から、学部・研究科、学科・専攻、個人に至るまでの PDCA サイクルをより明

確にし、自己点検・評価体制の強化を図る

- (2) 自己点検・評価を通じた教育改革の実現
 - ①大学基準協会からの指摘事項を基に、改革・改善を推進し内部質保証の実現を図る
 - ②全学的な教学マネジメント体制を強化し、教育の質的向上を図る
- (3) 離学者対策の推進
 - ①学部・学科が行う離学者対策の提案を募り、改善に向けた取り組みを支援する
 - ②学習支援センターと学部学科の連携を強化する
- (4) 教育改革に取り組む教員・組織に対する財政的支援
 - ①教育改革の取り組みに関する提案を募り、改革に向けた取り組みを支援する
- (5) IR（インスティテューショナル・リサーチ）の活用
 - ①IR データ解析に基づく学習成果の把握とそれによる教育改善を行う

3.キャンパスライフの質的向上

- (1) 自転車・オートバイ通学の事故防止対策の啓発を図るための講演会の実施
- (2) 大学キャンパス分煙の徹底と禁煙化の検討
- (3) 防災に関する支援事業の実施
- (4) 教育環境の充実、教室の整備、福利厚生のための施設・設備等の充実
 - ①教職課程（理科）の実施に伴い「生物学実験」における実験設備の改善を行う
 - ②実習室およびパソコン演習室の改修を行う
 - ③5号館、9号館および12号館教室、16号館演習室の視聴覚設備の改善を行う
 - ④学園創立90周年記念事業として、学生の集いの場の創出と教室設備の改修を行う
 - ⑤9号館の耐震工事を着手する

4.産大ブランドの確立

- (1) 地域スポーツ・健康の拠点としての情報発信
 - ①スポーツ健康学部地域・健康科学コース学生のスキルアップと、地域における学生の活動を活発化させる
- (2) 大学のブランディング構築に向けた広報活動の実施
 - ①大学スポーツ（クラブ活動）を積極的に広報する方法を検討する
 - ②プロジェクト共育の活動成果を広く広報する
 - ③研究室における学生の研究成果を積極的に広報する
 - ④大学の品格と学生のプライドを意識した、戦略的かつ継続的な広報を計画的に実施する

5.グローバル化の推進

- (1) 海外協定校との学生交流プログラム
 - ①海外留学・海外研修プログラム等を実施する
 - ②国際学部において新たな留学先の確保と、留学制度の確立を目指す
 - ③経営学部においてグローバルな視点を持ったファッションビジネス人材を育成する

(2) 学生の海外発表、プレゼンテーションの推進

- ①国際交流等のための短期留学生派遣を活用し、海外でのプレゼンテーション能力を向上させる

6.地域に必要とされる大学へ

(1) 地域と結びつけた教育

- ①経営学の講義の知識を生かし、大東市のバランスシートを精査し、在差の分析とその活用法を提案する「バランスシート探検隊事業」を実施する（大東市との協働事業）
- ②中小企業等に求められる簿記のスキルを身に付けたビジネス人材育成プロジェクトを実施する。平成30年度は初めて簿記を学び始める学生に合わせた教材を開発する
- ③地域の「ええもん」を紹介するPR誌の作成等を通して、地域の魅力発信活動を通じたアクティブラーニングを実施する（大東市・大東市商工会議所等と連携）
- ④地域の方々との交流や地域貢献を主とするプロジェクト共育を実施する

(2) 地域との協働研究

- ①商学科ゼミ（グローバル化に関心のある学生）とASEAN進出を戦略に掲げる大東市内の企業との協働による現地調査を実施し、進出に伴う課題の解決を目指す

(3) 地元企業への経営相談、技術相談、商品開発

- ①ゼミ単位で地域の企業などとの交流を活発化させ、新たな商品やサービス開発に関わることを目指す

(4) 地域への情報発信

- ①地元大東市と連携し、地元企業への技術者教育（CAD等の教育）や技術供与を行う

7.就職支援の充実

(1) インターンシップの充実

- ①一人でも多くの学生をインターンシップ実習生として送り出し、就職意欲を向上させ、早期就職内定・決定を目指す
- ②地元企業へのインターンシップを強化する

(2) 企業訪問による企業との連携強化

- ①知名度のある企業等の開拓を実施する事で多くの学生に安定した就職先を提供する
- ②地元企業の就職情報収集および情報提供を強化し、地元企業との連携を強化する

(3) 保護者対象の説明会（イベント）の実施

- ①保護者にも早期から就職に対しての意識をもってもらっていただくことを目的として、保護者向けのガイダンスを実施する

(4) 留学生および体育会クラブ所属学生へのサポート

- ①留学生の支援：学内ガイダンス、学外合同企業説明会への参加を促し就職意識を向上させる
- ②体育会クラブ学生の支援：企業で活躍している卒業生（クラブ活動所属）を招き、講演会等を実施し、各クラブ間での情報交換や就職に対しての意識づけを行う

(5) 初年次からのキャリア教育の充実

- ①各学部・各学科の特性を活かしたキャリア教育の授業を実施する

8.大阪産業大学附属高校および大阪桐蔭高校との高大接続の強化

(1) 特別推薦入試の整備と充実

(2) 大学授業の受講と入学後の単位認定の検討

(3) 大学生と高校生の混合グループによる2週間のニュージーランド英語研修の実施

(4) スポーツクラブを通じた連携の強化

9.入試戦略

(1) 高校内説明会・入試相談会（進学説明会）・出張講義の強化

- ①実施地区を絞り込み、より効果的な説明会を実施する。また、教員による高校への出張講義にも積極的に参加する

(2) オープンキャンパスの充実

- ①オープンキャンパスのイベント内容を充実させ、来場者に満足感を与え、インパクトのあるコンテンツにする

(3) 地方重点地区への入試広報強化

- ①オープンキャンパス・バスツアーの実施および予備校等との媒体との連携を強化する

(4) 関西地区を含めた地方入試会場の拡大

- ①出願強化地区を分析し、有効な地方入試会場を決定する

(5) 独自入試説明会の会場拡大

- ①大阪、京都、神戸における説明会を充実させ、参加高校の増加を目指す

■ 大阪産業大学附属中学校・高等学校

建学の精神「偉大なる平凡人たれ」は、平凡な日常生活をきちんと送っていくことこそ偉大なことである、地道にたゆまず努力していくことは偉大なことであると教えています。

日常生活の大切さ、努力の重要性を説く「偉大なる平凡人たれ」の建学の精神は、今の本校の次のような姿に現れています。

- ・挨拶する声が響きあう学校
- ・朝早くから自主練習に励むクラブ員
- ・夜遅くまで自習室で学習する生徒

生徒一人ひとりの努力をもっと励ましていける学校をつくっていきます

[教育の実践目標]

- 建学の精神「偉大なる平凡人たれ」のもと、グローバルな視野を持つ国際人を育てます
- 学習意欲を培い進路の保障（進学・就職の保障）に万全を期します
- 人として健やかに生きていくための人権教育に力を尽くします
- 文化、スポーツの高揚をはかり、豊かな感性、強靱な精神力と体力を養います
- 「与える教育」から「考えさせる教育」へ

1. 建学の精神「偉大なる平凡人たれ」を具体化した教育の実践

(1) 生徒一人ひとりが活躍できる場を設定し、自己肯定感を高めさせる

- ①設置する2科5コースの独自性を明確に打ち出す
- ②高等学校と連携し、中学の学校行事（体育祭、梧桐祭、文化発表会、卒業式等）の充実を図る
- ③各種学級委員の活動の活性化を進める

(2) 大阪産業大学との高大接続を推進する

- ①内部推薦制度の整備・充実を図るとともにAO入試への対策を強化し、大阪産業大学への専願合格者の増加を目指す（平成28年度155名24%、平成29年度162名25%）
- ②大阪産業大学 国際学部との「高大接続グローバル人材育成プログラム」（受講した授業の大阪産業大学入学後の単位認定・ニュージーランドへの短期留学を骨子とする）を実施する

(3) 地元地域とのつながりを強める

- ①運動部員、生徒会が中心になって実施する「挨拶運動」「清掃活動」等により、生徒の地元への貢献を強める
- ②吹奏楽部、チアリーディング部、ダンス部、美術部、イラストレーション・コンピュータ研究部を中心に地元で開催される各種イベントへの積極的な参加を進める
- ③本校で実施している「教育講演会」の地元住民への広報を進める

(4) 進路指導を充実させ、進学・就職へのサポートを強化する

- ①2020年の大学入試改革に向けて、各コースのカリキュラムの見直しを進める

②進学対策として実施している「学習合宿」「小論文講座」「面接指導」を充実させ、多様化している大学入試への対策を強める

③他大学への進学で、平成 29 年度の実績を上回る結果を目指す

④指定校推薦枠の拡充を図る

⑤職業意識の向上のため、外部講師によるガイダンス実施を検討する

⑥近隣施設の協力を得ながら「保育実習」「看護体験」「介護体験」等、キャリア教育を充実させる

(5) 教員の指導力向上への取り組み

①教員向け外部研究会、研修会への積極的な参加を促す

②各教科でアクティブラーニングへの取り組みを進める

③生徒を対象に実施する「授業アンケート」「自己評価アンケート」の有効活用を図る

④「学校関係者評価委員会」（構成委員は、保護者代表として後援会役員・卒業生代表として同窓会会長・地元地域代表・大阪産業大学教員）を開催し、客観的な評価を受け、委員会のまとめを HP に掲載する

2. 課外活動の活性化

(1) 運動部（23 部）・文化部（13 部）全クラブのレベルアップを図り平成 29 年度実績を上回る結果を目指す

①校内外の練習環境の整備を進める

②外部指導者も含めて、指導者間の情報交換を進め、指導力の向上に努める

③奨学金制度の有効活用により、優秀な生徒の獲得を図る

(2) 「強化指定クラブ」（運動部 8 部）の中で特にラグビー部・バレーボール部・サッカー部の全国大会出場を目指す

(3) 吹奏楽部の各種コンクールでの上位入賞を目指す

3. 管理運営体制の充実

(1) コンプライアンスの遵守を徹底する

(2) 財政の安定化を図る

①財政安定化のため、入学者数の確保を目指す（高校 760 名）

(3) 施設・設備の充実を図る

①1 号館の耐震工事を進める

②老朽化施設・設備の改修を進める

③高校の施設への移行を含め、中学棟の有効活用を検討する

④創立 90 周年事業の一環として、全教室にホワイトボード・電子黒板を設置する

(4) 教室で出るゴミの分別を実施する

(5) 照明の LED 化に向けて検討を進める

(6) 情報セキュリティを強化する

■ 大阪桐蔭中学校・高等学校

〔教育の実践目標〕

- 建学の精神「偉大なる平凡人たれ」と、桐蔭の教育方針「鼎立なりて碩量を育む」のもと、徳・知・体一体となった教育の充実を図ります。
- 生徒一人ひとりが希望する進路、目標を達成できる、自己実現が可能な学校になります。
- 中高一貫6ヶ年、高校3ヶ年それぞれのコースに応じた教育カリキュラム、また、設置するⅠ類・Ⅱ類・Ⅲ類のコース教育の特性を一層伸長させます。
- 本校が誇るすべての教育活動において、「日本一」の中等教育機関としてのその地位を確立します。

1. 教員指導力向上への取り組み

- (1) 各教科指導研究会をはじめ、アクティブラーニング型授業実践講座・リーダー教員研修会等の外部研修会へ積極的に参加し、教員としての資質を高める
- (2) 校内での研究授業を定期的実施し、「わかる授業」・「実践力を養う授業」の展開に努める
- (3) 授業アンケート・満足度調査を実施し、授業の進め方やクラス運営に工夫をこらす
- (4) 教員面談制度を導入し、管理職による教員との定期的な面談を実施し、抱えている問題に対し助言を行う

2. 特色ある指導カリキュラムを通じた教科教育力の向上

- (1) 中高一貫教育による桐蔭独自のカリキュラムを構築する
- (2) 2020年の大学入試（新テスト）に向け、カリキュラム・シラバスの見直しを行い、思考力・判断力・表現力を兼ね備えたグローバル化する経済社会の中で対応できる個性豊かな人材の育成に努める

3. 難関国公立大学及び医学部医学科への進学実績向上

- (1) 東京大学、京都大学、国公立大医学部医学科に、100名の合格を目指す
 - ①センター試験対策・国公立二次試験（個別試験）対策講座を充実させる
 - ②ICT機器の活用による情報活用能力を育成し、効率的な学習を実践する
 - ③理科の実験や数学の演習の充実を図り、理数教科が得意な生徒を育成する
 - ④低学年（中学校）から、早期に進学ガイダンスや卒業生によるキャリアガイダンスを行い、東大・京大・医学部医学科への意識付けをする

4. 課外活動の強化

- (1) Ⅲ類各クラブの全国大会出場など、高いレベルを目指す

- ①練習に集中できる施設・設備を整備する
- ②外部指導者やトレーナーを招聘する
- ③才能のある生徒を獲得するために、スカウティングや見学会・練習会を実施する
- ④習熟度に応じた学習指導を行い、進路を確保する

(2) 中学校および高等学校Ⅰ・Ⅱ類の部活動の活性化を図る

- ①外部指導者を招聘する

5. 高大接続の推進

(1) 大学との進学に係わる相互連携や施設設備の有効活用を推進するなど連携強化に努める

- ①高大連携事業の一環として、大阪産業大学入試問題の解答・コメントを行う

(2) Ⅲ類クラブと大学クラブとの高大接続を推進する

- ①合同練習や施設の有効利用など高大の連携強化に努める

6. 広報の充実

(1) 学則定員（中学校 600 名 高等学校 2,160 名）を確保する

- ①優秀な中学生・高校生を確保するため、入試企画部（生徒募集・渉外）を充実させ、校内説明会・見学会の拡充、外部説明会への積極参加、塾・中学校への訪問など、広報活動を活発に行う
- ②ウェブサイト等ネット媒体を利用した広報活動を行う
- ③奨学金制度を有効に活用し、優秀な生徒を確保する

7. 管理運営体制の充実

(1) 業務のマニュアル化・システム化を進め、業務の効率化を図ると共に、教員及び事務職員に対してコンプライアンス遵守を徹底する

- ①雇用条件を明確にし、優秀な教員を確保する
- ②教務支援システム（生徒情報管理）を構築し、入口から出口までの生徒情報の一元化を図り、情報の管理・共有を行う
- ③新学費・預かり金システムの導入に伴い資金管理を強化する
- ④情報セキュリティを強化する
- ⑤各種規程やマニュアルを整備・周知し、コンプライアンスの遵守を徹底する
- ⑥老朽化施設・設備等の改修と法令に基づく消防設備等の点検と改修を行う
(空調設備・電話交換機・緊急放送設備の更新・消防設備等の改修)

■ 法人本部

1. 「学園財政収支改善検討中期計画」に基づき、平成 32 年度末での収支均衡（基本金組入前収支差額の黒字化）を目指す

(1) 収入健全化に向けた取り組みの推進

- ① 入学者の確保
- ② 離学率の改善
- ③ 休学者からの在籍料の徴収
- ④ 奨学費支出の削減
- ⑤ カリキュラムの見直し
- ⑥ 固定資産処分差額の削減
- ⑦ 光熱費削減
- ⑧ その他の支出削減

2. 「学園創立 90 周年記念事業」に向けた取り組みの推進

- (1) 募金活動を実施する（平成 30 年 9 月末まで募金活動を実施：目標金額 200,000 千円）
- (2) 記念式典・祝賀会（平成 30 年 11 月 2 日）の実施及び記念誌の作成
- (3) 10 年後もその先も選ばれ続ける学園であるために、学園創立 100 周年を見据えた長期ビジョン「学校法人大阪産業大学 VISION 100（仮称）」を策定し、学内外へ公表する
 - ① キャンパス整備構想の発表
 - ② 教職員の行動指針の宣言
 - ③ 「私の偉大なる平凡人像」の募集を行い、最優秀賞、優秀賞、佳作作品の発表

3. 安全・安心で魅力あるキャンパスの計画・整備

- (1) 各建物における安全・安心な環境整備に関する工事等を計画的に実施する
 - ① 各建物の外壁診断および保全の実施
 - ② 照明 LED 化工事の実施
 - ③ 空調機等設備更新工事の実施
- (2) 学内食堂のリニューアル（平成 31 年度予定）へ向けた取り組みの推進

4. 学園における内部統制の充実、ガバナンス強化と共に、コンプライアンスに基づく適切な学園運営

- (1) 学園諸規程の点検整備及び業務改革案を提言する
 - ① 「意思決定」「情報管理」「服務規程」「会計・経理・財務報告・調達・購買」に関わる重要規程の制定・改定等を推進すると共に業務改革案を提言する
- (2) コンプライアンス意識の向上を目指した研修等、継続的な取り組みを実施する
 - ① 階層別研修、目的別研修等を含め継続的に実施する
- (3) 財務経理部門に係る内部統制の強化

- ①公認会計士による専門的な指導を仰ぎながら、財務部門における業務フローの見直し、次期財務システムの構築など、財務経理部門の内部統制の強化を図る
- (4) 大阪産業大学、大阪産業大学附属中学校高等学校および大阪桐蔭中学校高等学校と法人本部との定例懇談会を開催する
- (5) 内部監査室と連携した三様監査の充実

5. 「大阪産業大学環境マネジメントシステム (OSU-EMS)」の推進

- (1) 各建物の電気・ガスの使用量及び各部署の紙の使用量を毎月調査し、前年度比 1%減を目指し取り組む
 - ① [10月：半期の振り返り] 平成 30 年度の削減目標値及び取り組み内容に基づき、各部署で実施した「環境負荷低減項目」について、平成 30 年度の中間報告を行うと共に進捗状況を確認、必要であれば軌道修正を行う
 - ② [3月：1年間の振り返り] 各部署で実施した「環境負荷低減項目」について、平成 30 年度の年間報告及び一年間の総括を行う

6. 事務職員を対象とした目標管理制度の定着を図る

- (1) 事業計画とトップヒアリングに基づき部及び課の業務目標を策定する
- (2) 部目標・課目標に基づく個人目標を策定する
- (3) フィードバック面談（目標面談・中間面談・期末面談）を実施する

7. 能力を最大限発揮し、やりがいを持つ人事制度改革を押し進める

- (1) 人材育成のグランドデザインを作成する
- (2) 適材適所の異動を推進する
- (3) 就業規則等、関連規程の整備を行う

8. 「将来構想提言プロジェクト」の設置

- (1) 理事長・学長の諮問による法人・教学協働による取り組みとして「将来構想提言プロジェクト」を設置し、10年後を見据えた大学の学部・学科のありようを平成 30 年度中に検討する